

事業所名

(放課後等デイサービス・こどもねっとみはら)

## 支援プログラム

作成日

R7

年

2月

1日

法人（事業所）理念		子ども達それぞれに合った自立に向けた支援を行う						
支援方針		「専門的サポートで様々な能力の成長を促す」・一人ひとり異なる個性に合わせ、保育士・作業療法士・心理士・言語聴覚士・理学療法士・児童指導員による療育を行うほか、専門職員が運動や音楽を用いたオリジナル・カリキュラムによる療育を実施。個別・少人数での課題学習などと併せ、感性・感覚・情緒・コミュニケーション能力などの成長をそれぞれの面からサポートします。						
営業時間		9時	0分から	17時	0分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人 支 援	健康・生活	・健康状態の維持・改善～検温、視診等による健康チェック。自分の体調の変化に気付けるよう促しを行います。体調、気温による衣服の調節の促し。・基本的な生活スキルの獲得～自分の荷物の片付け、衣服の着脱、排泄の自立、手洗いの習慣等の自立に向け支援していきます(視覚支援、チェックシートの活用) ・生活習慣や生活リズムの形成～生活の流れに見通しを持ち、安心して過ごせるよう環境を整えていきます。(視覚スケジュールの活用、定着を図ります)						
	運動・感覚	・姿勢と運動・動作の基本的技能の向上～作業療法士によるプログラムにより、日常生活に必要な動作の獲得を促します。(個別課題の中で、鉛筆、ハサミ、スプーン、箸等道具の使い方の獲得。戸外遊び、サーキット、ボール遊び等の全身運動により体幹、筋力の向上) 個々に合わせた道具(バランスクッション等の補助具)を活用しながら、学習へ取り組む姿勢の維持を図ります。						
	認知・行動	・心理士による個別の心理療育～個別療育の中で、個々に合わせた支援を行います。・対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得～個別課題や小集団活動の中で、時間、空間、数等の認知形成を促します。LST(ライフスキルトレーニング)へ取り組み、生活スキルの向上を図ります。ビジョントレーニング。・行動障への予防及び対応～他の人や自分を叩く、物を叩く等社会的に受け入れがたい行動が見られた際には、様々な専門職の見解をもとにその理由、原因を見つけます。そしてそれぞれに合った方法で適切な行動の習得を目指します。						
	言語 コミュニケーション	・心理士のプログラムによるSST(ソーシャルスキルトレーニング)の実施(社会のマナー、対人面、他者視点等を経験します)・コミュニケーションの基礎的能力の向上とコミュニケーション手段の選択と活用～指先、身振り、言葉を使った相互的なコミュニケーションを日々の活動、遊びの中で習得していきます。						
	人間関係 社会性	・仲間作りと集団への参加～小集団での活動に参加し、成功体験を積み「みんなで遊ぶって楽しい」という経験を提供していきます。・自己理解と行動の調整～SSTやLSTの中でロールプレイ等通して、社会のマナーやルールを体験します。また、自分の得意な事、苦手な事等自分の行動の特徴を理解し、気持ちや行動の調整ができるよう支援していきます。						
家族支援		・定期的な面談を実施します。・HUGシステムを活用した密な情報共有			移行支援		・関係機関との細やかな情報交換や連携を図り、スムーズな移行に向けて支援します。	
地域支援・地域連携		・必要に応じて保育所等訪問支援、関係機関との連携を図っていきます。			職員の質の向上		・外部研修への参加 ・定期的な内部研修の実施(安全管理、虐待防止、救命救急、療育実技等)	
主な行事等		・地震津波避難訓練・買い物体験・調理体験・年中行事体験・関連施設の行事への参加・防災センター見学・公共機関見学						